

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 8 月 15 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	沓間 領

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
愛知県 犬山市 日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 7 月 22 日 ~ 平成 26 年 7 月 25 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
公益財団法人日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
概要
本実習は、PWSの3つの出口の内の1つに設定されている、動物園、水族館の博士学芸員(キュレーター)の仕事について学び、体験するため、愛知県犬山市にある公益財団法人日本モンキーセンターを受け入れ先として行われた。日本モンキーセンターは日本で唯一の霊長類専門の動物園であり、2014年からは公益財団法人となり京都大学と深く連携している。
内容
講義、ニホンザル解剖見学、エンリッチメント実習、中学生への出張授業見学、来園者への聞き取り実習、骨標本、内蔵標本の整理、飼育舎の清掃
感想
今回の実習では主に JMC のキュレーターの方々に講師になって頂いて、動物園の日常業務やキュレーターとしての活動等を体験させていただくような形で実習を行った。今まで、キュレーターという職業を名前だけは知っていたが実際にどんな業務を行うのかはよく分からなかった。今回の実習でその業務を実際に体験しながら理解できたのは大きな収穫になった。特に印象に残ったのは地元の中学校への出張授業の見学である。研究者として、子ども達に自分の面白いと思った事を分かりやすく伝えるというのは、とても難しく、且つとても大事な事であると感じた。キュレーターの高野さんの授業は、実際に骨標本のレプリカを子ども達に触ってもらうことによって興味をもってもらえる等の工夫が随所にあり、また、学校の先生との連携もしっかり取れていてとても素晴らしかった。いつか自分でもこのような事を行ってみたいと思った。 また、今回は動物園の博物館としての役目というものを多く知る事ができた。標本や知識などを集積し記録して後の研究や一般展示などに生かす。その管理などもキュレーターの大切な役目だと知った。



写真：Wao ランド内のワオキツネザル

6. その他 (特記事項など)